

「海洋教育」を問う：環境・生命・安全

日時 2017年7月22日(土)

13:00(受付開始12:30)～16:00(予定)

場所 東京大学本郷キャンパス福武ホール・ラーニングシアター

主催 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター 日本財団

後援 文部科学省(申請中)

内容 「海洋」というテーマは、自然科学や人文社会科学のあらゆる分野を横断する学際性をもっており、あらゆる観点において私たちの生活につながりを持っています。海洋教育とは何のためにあり、何をめざすのか。そもそも私たちは「海」という存在をどのように捉えたらよいのか。本イベントでは、これまで海洋教育を推進してきた様々なアクターたちによる実践発表及びディスカッションを通して、「海洋教育」そのものを問い返し、これからの海洋教育の望ましいあり方を追求していきます。

●詳細は東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターのウェブサイト (<http://rcme.oa.u-tokyo.ac.jp/>) にて6月初旬頃掲載予定です。



海洋教育パイオニア スクールプログラム Ocean Education Pioneer School Program

2018年度スケジュール(予定)

募集要項発表: 2017年9月

申請受付期間: 2017年10～11月

対象校決定: 2018年1月中旬

海をテーマにした学びを支援します。

～海で広がるアクティブ・ラーニングの可能性～

海に囲まれたわが国では、全国各地の学校において海を題材にしたさまざまな学習活動が行われています。これらは、地域学習、体験活動、環境保全、産業、安全、防災などさまざまな視点で行われていますが、その多くは探究的な学びであり問題の発見や解決を念頭にいた主体的・協働的な学習であることが特徴です。

助成制度「海洋教育パイオニアスクールプログラム」は、アクティブ・ラーニングの題材としても相性が良く、これからの学びに役立つ可能性を秘める海の学びに取り組もうとする学校や先生の活動を支援します。これまで行ってきた海の学習をより充実させたい、あるいは新しい海の学びに取り組んでみたい、という先生方にご活用いただき、日本、そして世界を担う子どもたちに求められる資質・能力を育む、海を用いた新たな学びの可能性を広げていきたいと考えています。

◆授業・活動・研修費用の助成

授業・学習活動の実践や、研究発表会・学会・他校の見学など教育研究に必要な費用を助成します。

例：外部派遣講師など専門家に対する謝金、校外実習・研究発表会等の実施に関連する旅費、授業に必要な機材・備品の購入費、教材・活動内容を取りまとめた冊子の印刷製本費など

◆学校間の情報共有・意見交換をサポート

実践事例・カリキュラムの共有、意見交換、学校間ネットワーク構築のため、助成校を対象としたフォーラム等を開催します。

募集内容(予定)

①地域展開部門

対象：複数校が共通のテーマのもと連携して行う取り組みや地域のまちづくり、教育計画などに基じた取り組み
内容：幹事校上限150万円、メンバー校上限100万円

②単元開発部門

対象：海を主題とする学習活動全般
内容：上限50万円

※実際の募集内容とは異なる場合があります。

日本の島嶼領土－尖閣諸島・竹島・北方領土－

新学習指導要領では、海洋に囲まれ多数の島からなる日本の領土・領海の観点に関する内容の充実が図られました。海洋政策研究所島嶼資料センターが作成した「日本の島嶼領土－尖閣諸島・竹島・北方領土－」は、これらの島々について分かりやすく説明していますので、教材としてもご利用いただけます。

<https://www.spf.org/islandstudies/jp/>



Ocean Newsletter

海に関する様々な問題を広く皆様に知っていただき、その解決策について議論していただくため、月2回、「Ocean Newsletter」(オピニオン誌)を発行しています。海の学習テーマを考える際のヒントとして活用いただけます。

<https://www.spf.org/opri-j/projects/information/newsletter/>



海洋白書

海に関する1年間のさまざまな出来事や活動を分かりやすく整理・考察した『海洋白書』を毎年刊行しています。掲載データが水産高校教科書や私立中学入試問題で活用されるなど、注目が高まっています。



【お問い合わせ先】

笹川平和財団 海洋政策研究所

〒105-8524 東京都港区虎ノ門1-15-16 笹川平和財団ビル6F

Tel:03-5157-5279 Fax:03-5157-5230 E-mail:ocean-education21@spf.or.jp

ウェブサイトにて採択校一覧や海洋教育の実践事例などをご覧いただけます。

<http://www.spf.org/pioneerschool>



2016 年度事例紹介①

学校名 鹿児島県南さつま市立坊津学園

活動名 科学的探求心を持ち、問題解決力を高め、未来を切り拓く児童生徒の育成

実施教科 理科、坊津学、課外活動等



プログラム概要

地域の高校や、大学との連携により、魅力的な事象提示をすることで、児童生徒の科学的な興味・関心を高めることを目的として、海岸の岩石と地層の観察や微生物のはたらきと海と森の生態系等についての学習を行いました。



外部講師（大木公彦鹿児島大学名誉教授）を招いての坊津の名勝「双剣石」での岩石と地層の観察



外部講師（松井智彰鹿児島大学准教授）による坊津にある鉱物やその性質に関する説明



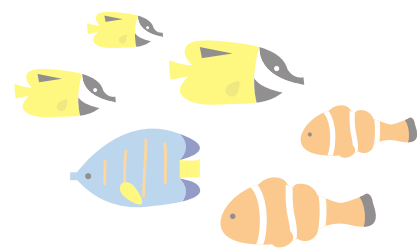
南さつま市の小中学生にむけた「おもしろサイエンスショー」

2016 年度事例紹介②

学校名 宮崎県串間市立市木小学校

活動名 未来の市木を考える パート①

実施教科 海洋教育科、図画工作等



プログラム概要

海洋教育科において、本地域の特色である海の豊かな自然を生かした体験活動を通して、海に親しみ、積極的に海に係わる姿勢を養い、海の自然や資源、ここに生きる人々の知恵や工夫を知り、未来の市木の姿を考える児童を育てていくことを目的に、漂着物や貝を使った制作活動や、サーフィン教室、水族館見学などを行いました。



貝殻を使った制作物作成



サーフィン教室



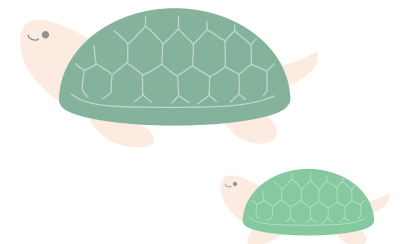
水族館見学

2016 年度事例紹介①

学校名 気仙沼市立大島中学校

活動名 大島の自然環境を生かした海洋教育

実施教科 理科、総合的な学習の時間



プログラム概要

地域資源を活用した体験活動を通して、ふるさとの良さを知り、身につけた知識や技術を生活に生かす力身につけさせることを目的として、ホタテ養殖体験学習や、權練り体験、小田の清掃活動など、大島の海での体験活動を行いました。



ホタテの養殖体験



小田ノ浜清掃活動



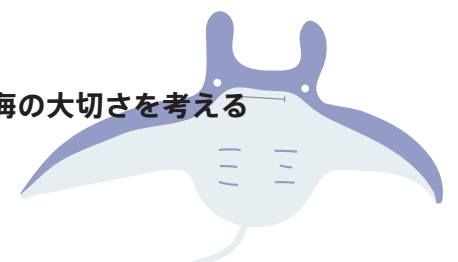
權練り体験

2016 年度事例紹介②

学校名 埼玉県立越ヶ谷高等学校

活動名 海岸動物の観察・採集・分類を通して生物多様性を学び海の大切さを考える

実施教科 理科、学校行事



プログラム概要

海の無い地域のため、通常の学習活動や生活の中で海を感じたり海との繋がりを意識することがない。そこで、海を大切にする気持ちと考え方の基礎を育成することを目的として、臨海学習を行い、海岸動物の観察・採集を行い、海の生物の多様さや生物多様性を育む海の大切さと海との繋がりについて学習を行いました。



海岸実習の様子



採集したイトマキヒトデ



海洋学講義の様子（講師：東京大学三崎臨海実験所 大森昭仁特任助教）